

映画 **黄金を抱いて翔べ** 公開記念

井筒和幸監督

インタビュー



黄金を抱いて翔べ

激情、裏切り、駆引き、陰謀...

240億円の金塊をめぐる、男たちの“究極の賭け”が、いま始まる。



推理小説界の巨匠が放つクライム・ミステリーの金字塔、完全映画化！

大阪に本店を置くメガバンク。コンピュータで完全に制御された鉄壁の防護システムの向こうに眠る、大量の金塊一。6人の男たちによる、練りに練った強奪作戦の幕が切って落とされた！ベストセラー作家・高村薫のデビュー作にして日本推理サスペンス大賞受賞の犯罪小説の最高峰、『黄金を抱いて翔べ』（新潮文庫刊）が、豪華キャスト・スタッフの手により完全映画化される。大阪の街を舞台に繰り広げられる金塊強奪作戦を、『岸和田少年愚連隊』、『パッチギ！』などの鬼才・井筒和幸監督が濃密に描き出す。主演の強奪実行犯・幸田役は妻夫木聡。強奪チームのリーダー・北川には浅野忠信。さらに、桐谷健太、溝端淳平、チャンミン（東方神起）、西田敏行といった、豪華にして個性豊かなキャスト陣が集結した。



札束は信用できないが、金塊は永遠だ。だからやるんだ

過激派や犯罪者相手の調達屋をしている幸田は、大学時代の友人・北川から、大阪市の住田銀行本店地下にあるという240億円相当の金塊強奪計画をもちかけられる。北川が幸田とともにメンバーに選んだのは、システムエンジニアの野田、爆破工作のエキスパートで国家スパイの裏の顔を持つモモ、北川の弟・春樹、元エレベーター技師でチームの相談役でもあるジイちゃん。だが、計画が進むにつれて彼らの周囲で謎の事件が次々と発生。次第に見え始める彼らの過去、裏切り、陰謀……。それぞれの思惑が交錯するなか、計画は思いもよらぬ方向へと進んでゆく。大阪の街を舞台に繰り広げられる、想像を超えた命賭けの金塊強奪作戦。大胆不敵な計画の裏に隠された〈衝撃の真実〉とは一。



「黄金を抱いて翔べ」

(c)2012「黄金を抱いて翔べ」製作委員会

11月3日全国ロードショー

▼公式サイト

<http://www.ougon-movie.jp>

原作：『[黄金を抱いて翔べ](#)』 高村薫 著（新潮文庫刊）

監督：井筒和幸

脚本：吉田康弘、井筒和幸

出演：妻夫木聡、浅野忠信、桐谷健太、溝端淳平、チャンミン（東方神起）、西田敏行

配給：松竹

このあと、監督である井筒和幸さんのインタビューをご紹介します！

井筒和幸監督インタビュー

1月3日（土）に公開される『黄金を抱いて翔べ』でメガホンをとった井筒和幸監督に、『黄金を抱いて翔べ』の魅力と、オススメの本・映画について語っていただきました！



Q.原作との出会いについて教えてください。

もう20年以上前だね。新聞広告で「日本推理サスペンス大賞受賞」と書かれているのを見てちょっと気になったのがきっかけ。書店で「小説新潮」を手にとってみたら、ベレッタ（拳銃）と鬩りのある青年の顔の挿絵イラストが描かれていて、これはハードボイルドアクションだと思ってワクワクしたね。

著者の高村薫さんについては男性なのか女性なのかもわからず、最後のページに載っているプロフィールを見たら、女性でしかも同い年！不思議な因縁を感じながら読んだよ。

Q.実際に読まれた感想は？

一言でいえばクライム小説、映画ならフィルムノワールのタッチのサスペンスだね！大阪の街で発電所や共同溝を爆破させるのを時間軸できちんと書いているから、本当に迫力のある小説。いままでのパターンを塗り替えるような新しいタイプのハードボイルド小説だったね。非常に細かいことまで書き込まれていて、女性にしか書けないだろうと感じたよ。でも、書かれているのは男だらけの話だし、そういう意味でもおもしろかったな。

それに「これは映画になりそうだな」とすぐに思って、みんな狙いに来るんじゃないかと不安と焦りがあったんだけど、幸運にも映画化されなかったね。細かく同時にいろんなことが進んでいく話だからスケールも大きいしお金もいっぱいかかる。簡単に映画化はできないという実感はあって、当時は僕にもそんな甲斐性がなかったな（笑）。

Q.たくさんのオリジナル作品を撮ってこられました、今回原作ものを撮ることと違いはありますか。

原作からは味を感じとる、においをかぎとるんだよ。そこに流れている作家の思想を読みとらないといけない。こういう本格的な小説は、それを映像に反映させるのが難しいね。書いてあることは誰でも撮れるし、絵に並べられる。でもそうじゃない、汲み取らないといけない。どういう意図で、どんな気分や哲学で生きている作家が書いているかをね。今ではない、高村さんの思いが出ている小説の中の時代も汲み取らないと原作に失礼だし、そこに違う思想が入るとおかしくなると思うからね。



Q.オススメの本についてお聞きします。ご自宅の本棚には3,4冊しか残していないと伺いましたが

...

そのうちの1冊が、小説新潮版の「黄金を抱いて翔べ」なんですよ。

小説は読んだらすぐ捨てちゃうんだよね（笑）。他にあるのは「復讐するは我にあり」（佐木隆三著）、「飢餓海峡」（水上勉著）。巨匠級の監督によって、どちらもおもしろく映画化されている。この2冊をとっておいたのは、あとで資料にしようと思ったからだろうね。「復讐するは我にあり」は事件の精密さの描写など「おっ！」と思って、別の映画を撮るときに役立つことがあるだろうと。インターネットではそんな中身のことは探し出せないからね。「飢餓海峡」もすばらしい、サスペンスあふれる運命的に強盗殺人者と娼婦が会う、人生の話だね。美しい文体で、水上さんの一言一句は参考になる。もうひとつ挙げるとすれば「東海道四谷怪談」。戯曲だけれど、これもホラーサスペンスの原点。人情物語でもあるから当時の江戸の風情もよく出ている。わからない言葉が多く注釈だらけで読みにくいけれど、知的好奇心をくすぐるよね。

外国小説だと「郵便配達は二度ベルを鳴らす」がおもしろい！ジェームス・M・ケインという1930年代のハードボイルド作家。簡潔な文体でね、あまり感情を描写しないで物事だけを書いているんだ。見たとか、にぎったとか、殴ったとか、死んでいたとか。感情をぜんぜん書かないで続いていく文体がいいんだよ。同じ著者で「殺人保険」もおもしろいね。弁護士が富豪の女に惚れて「うちの旦那、殺ってよ」とそそのかされる。「あなた弁護士でしょ、遺産が転がり込むのは間違いないから。自殺したように見せかけよう」って。そこで鉄道で飛びおり自殺に見せかけたら、なんと保険が倍額になった。弁護士も舌を巻く。「倍額になるなんて、よっぽど考えていたんだな、この女は」というミステリーが見えてくる。B・ワイルダーの「深夜の告白」がその映画版。ロバート・B・パーカーの「銃撃の森」もいい。弁護士が、マフィアが殺しをする場面を見てしまう。ちくったら大変なことになるぞ！とマフィアが狙ってくる。それで森の中にもぐり込んで、追いかけてきたマフィアをひとりずつ殺していく。そうしないと殺されるからね。殺人をしないはずの人間がマフィアと戦っていくというね、なかなかおもしろいサスペンスアクションだよ。

Q.続いて、オススメのDVDについてお聞きします。たくさんあると思いますが...

『黄金を抱いて翔べ』にかこつけたジャンルで選んでおこうかな。

まずは、アメリカン・ニューシネマから。ジョン・ミリアス監督の『デリンジャー』は、ウォレン・オーツ主演の最高傑作。この間、DVDがやっと出てすぐに手に入れたね！本当に飽きない映画だよ。

それにドン・シーゲル監督の『突破口』。『黄金を抱いて翔べ』を映画化する上での原点だと思ってる。

あとは『ローリング・サンダー』。あのトミー・リー・ジョーンズが脇役でほぼデビュー作。格好いいんだよ。

『現金（ゲンナマ）に手を出すな』はジャン・ギャバン主演のフランス映画。王道中の王道、フィルム・ノワールそのもの。ジャック・ベッケル監督はそういうのが得意な人。『穴』って脱獄モノもいいけど、この強奪モノはたまらんよ。印象に残るシーンがあって、弟分と2人、秘密の部屋で「もうやくざなんてやめようぜ」なんて言いながら、ワインのコルクを抜いて、棚からラスクを取り出し皿に何枚かおいて、缶に入ったレバーパテを冷蔵庫から出して開けてラスクにナイフでつけて食べて、ワインを飲んで...ってずっとしゃべりながらやってるのね。それから明日も早いし寝ようか、クローゼットをあけてシルクのパジャマを取り出して着て、洗面台の前に立って歯を磨いて、ベッドに行って...って全部やるの、最後まで。味のあるシーンだよ（笑）。そういうなんでもない描写を丁寧にやっていて、ジャン・ギャバンでしか出来ないと思ったね。

初～中期のマーティン・スコセッシ監督作品『ミーン・ストリート』『グッド・フェローズ』もいいね。ハーヴェイ・カイテルが主演なんだけど、『ミーン・ストリート』で共演したロバート・デ・ニーロがこれで見抜かれて、『タクシー・ドライバー』で出世して『ゴッド・ファーザー』や『グッドフェローズ』まで登っていくのね。逆にハーヴェイは出世するのにものすごく時間がかかってね。「俺のほうが先輩なのに」という歯がゆさが、その後の『マッド・フィンガーズ

』に出ていて、そこがいいのよ。

『バッド・ルーテナント/刑事とドラッグとキリスト』も傑作！大笑いしたね。中身は最低の話、でも最高。ならずもの刑事のハードボイルド。罪を犯すたびにキリスト教会に行って懺悔する悪い警部補なんて、最高でしょ？



▼監督のおすすめの本をブックログ本棚にまとめました！

井筒和幸監督の本棚

映画『黄金を抱いて翔べ』公開記念！井筒和幸さんのおすすめの本をまとめました。

ブックログ本棚 レビュー 引用 まとめ 読書グラフ 読書目録 プロフィール

井筒和幸さんの本棚

本 映画 その他

井筒和幸さん

本棚 | プロフィール [編集] タイムライン

あなたの本棚です

登録アイテム数 28冊

表示モード

リスト プログ カード

<http://booklog.jp/users/izutsukazuyuki>

ぜひ、こちらも合わせてご覧ください。

プロフィール

井筒和幸監督プロフィール

1952年、奈良県生まれ。1981年『ガキ帝国』で日本映画監督協会新人奨励賞を受賞。以降、話題作を世に送り出す。『パッチギ!』(04)では、05年度第48回ブルーリボン最優秀作品賞、第79回キネマ旬報監督賞など多くの映画賞を獲得。その後も『パッチギ! LOVE&PEACE』(07)、『ヒーローショー』(10)など社会派エンターテインメント作品を放ち続けている。

映画『黄金を抱いて翔べ』公開記念！井筒和幸監督インタビュー

<http://p.booklog.jp/book/59451>

著者：黄金を抱いて翔べ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/ougon-movie/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/59451>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/59451>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ